

生涯研修プログラム

3. ミートザエキスパート B. スライドセミナー

3) 卵巣腫瘍の画像診断

横浜南共済病院副院長 片 桐 信 之

卵巣腫瘍の画像診断は現在超音波, CT, MRI の三者が主に応用されているが, それぞれの適応は一般に超音波はスクリーニングに, 後二者は悪性腫瘍又は精査用に用いられている。

卵巣腫瘍は画像的には嚢胞性, 充実性, 混合性に, 組織学的には良性, 中間群, 悪性に広く分別診断されているが, それはこの分類法が臨床に最も直結して, 実用的であるからである。

この画像パターンの判定は三者共容易であるが, 悪性腫瘍の読影は必ずしも容易ではない。それというのも悪性診断が充実成分の同定と読影に依存しているためである。骨盤内腫瘍の存在診断に関しては超音波スクリーニングだけでもまず見逃すことはなくなったが, その臓器同定や腫瘍の

質的診断等については非特異的パターンが存在する以上複合画像診断を施行しても困難なことがある。

全嚢胞性卵巣腫瘍は臨床的にも画像的にも診断上ほとんど問題となることは少ないので今回は充実性卵巣腫瘍に重点をおいて言及する。

卵巣癌のリンパ節転移や骨転移の診断には RI が有効な場合がある。スペクトデータから retention index を計算することにより治療前後の評価が客観的にできるので有効な治療効果判定法といえる。

以上自験例の中から超音波画像を主体に CT, MRI, RI 等の画像も交えて問題となる画像を選んで討議の対象としたい。

4) 婦人科病理診断の基礎

名古屋大学臨床検査医学教授 中 島 伸 夫

卵巣, 卵管, 子宮内膜, 子宮頸管には上皮性の腫瘍として漿液性腫瘍, 粘液性腫瘍, 類内膜性腫瘍, 明細胞性腫瘍などが認められ, 各部の組織型は共通しており, 生物学的性質にも類似したものが多。そして腫瘍が悪性の場合, 化学療法に対

する反応にも共通性があると推定される。したがって, 各組織型と悪性度を的確に診断することが大切である。このセミナーでは子宮内膜の病変を新 WHO 分類に則してその診断と鑑別につき, 初心者向けに解説する。